

# 東京都立大学哲学会

## 第46回研究発表大会

来る7月8日に東京都立大学哲学会・第46回研究発表大会を開催いたします。4年ぶりの対面での大会となります。皆さまのご参加をお待ちしております。

日時 7月8日(土) 12時30分より

場所 東京都立大学南大沢キャンパス1号館110教室

[https://www.tmu.ac.jp/extra/download.html?d=assets/files/download/barrier\\_free/minamio\\_sawa\\_1\\_23.pdf](https://www.tmu.ac.jp/extra/download.html?d=assets/files/download/barrier_free/minamio_sawa_1_23.pdf)

京王相模原線・南大沢駅より徒歩6分 南門から入って右側の1号館1階、入り口から入り右手の階段教室

### ■第46回研究発表大会(12時30分～)

司会：山蔦 真之(名古屋商科大学)

開会のあいさつ

#### ○ 研究発表1(12時35分～13時20分)

岡田誠二(東京都立大学・博士課程)「ソポクレス『アイアス』におけるアイアスの負の側面の描写が持つ機能」

司会：大芝芳弘(東京都立大学)

#### ○ 研究発表2(13時20分～14時05分)

丹下芳雄「啓蒙と陰蔽—鏡像問題をめぐって—」

司会：堂園俊彦(静岡大学)

#### ○ シンポジウム(14時15分～16時35分：発表時間、各30分程度。その後、質疑応答)

テーマ：「哲学史における古代哲学」

司会者：石川求(東京都立大学)

提題：

松浦和也(東洋大学)「ギリシア哲学の分析的読解と時代性」

上田圭委子(東京都立大学)「ハイデガーにおける古代ギリシア哲学の受容」

山蔦真之(名古屋商科大学)「カントとヘーゲルにおけるプラトン受容の問題」

【シンポジウム趣意文】

西洋哲学の始原として古代ギリシア哲学は哲学史の中でさまざまな形で「受容」されてきた。古代哲学に歴史的な重要性を認めるのか、あるいはそれを超えて未だなお立ち戻るべき、あるいは乗り越えるべき課題を見るのか。本シンポジウムは18、19、20世紀のドイツ哲学から現代の研究に至るまでの古代哲学の「受容」の歴史を、プラトンのイデア論やアリストテレスの自然学を例に議論することで、哲学は哲学史といかに向き合えるのかの可能性を探りたい。

東京都立大学哲学会事務局

192-0397 八王子市南大沢 1-1

東京都立大学人文社会学部人文学科哲学教室内

TEL 042-677-2068 / FAX 042-677-2073 / Email totetsu2020@yahoo.co.jp